

第2回 北海道グループホーム大会 第5回 南北海道認知症フォーラム 共同開催

協議会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様もご存知かと思いますが、去る9月5日、七飯町文化センターにおきまして、第2回北海道グループホーム大会を南北海道グループホーム協議会との共催のもと行いました。前夜祭と銘打った懇親会には全国各地から100名を超える方々にお集り頂き、終盤にはお宝



映像も流れる賑やかなものとなりました。中には記憶を無くすほど懇親？した方もいるとかいないとか。大会当日は900名以上のご参加を頂きまして、スタッフ一同驚きを隠せなかったところです。

さて、肝心の大会の内容ですが、北海道大会が道南にやって来るといふ事でプロック役員一同、力を入れ

すぎてしまいました。今回のコンセプトは認知症の人や家族の様々な想い、地域で暮らしていくために必要な介護職・相談職からの視点、そして重要な医療という大きなサポートを織り交ぜて、どのように認知症の人を支えていく道筋をつけていくのかを考えようとの企画でした。このような根本的ではあるが奥が深い課題についてお話を頂ける先生を探すことを始めたのが今年の3月。どうせやるなら日本では右に出るものはいない先生をというプロックとしての身の丈を完全に無視した人選に入りました。結果、長谷川和夫氏と永田久美子氏のブックイングに成功。長谷川氏の長谷川先生、センター方式の永田先生とこの業界では言わずと

知れたお二方です。残るは認知症の人ご本人の立場でお話をいただける方。これは悩みました。認知症のご本人に登壇して頂くことが良いことなのか、そしてそれが可能なのか。可能であったとしても人選はどうするのか。悩みぬいた末、一人の存在が浮かび上がりました。その方がNHKの小宮英美氏でした。小宮さんはNHKで番組制作を担い、認知症のお年寄りに密着したドキュメンタリーをお作りになられ、認知症やグループホームに関する執筆活動でもご活躍されております。この方であれば認知症のご本人の想いを代弁できると確信しお願いするに至りました。

公益法人化 に向けて 会長 武田純子

平成12年になって介護保険の中で、ようやく息吹をあげ、その後、見る見るうちに急増し、年間100ヶ所に及ぶ新たな事業所が参入し、10年経ったときには、800事業所に及ぶ数になっ

ていました。当協議会の会員入会率が近年、50%を超えるようになり、認知症のケアに関して、専門的な研修を受けて、対応すること、BPSDが減少し共に暮らすことが容易になってきました。

門として取り組んできた当協議会が、より専門的に社会的責任を果たすため、利益を求めめるのではなく、広く公的に認知症本人、ご家族、そこに携わるすべての人が安心して当たり前の生活ができるように支援することで、北海道における福祉

のりになるなんてその時は誰も思っていなかったと思います。参加申込みが増えるにつれ、会場と大半の宿泊者が函館市内のホテルを利用するのでその間をどのように結ぶかなど諸問題が次々と出てきました。ご参加の皆様にはご不便をお掛けしたこともあるとは思いますが、介護はプロでも大会運営の素人集団で作りましたので、どうかご容赦願いたいと思っております。改めまして、この度の本大会へ足をお運び頂いた皆様、大会運営にご協力を頂いた皆様への感謝を申し上げます。



NPO法人北海道認知症高齢者グループホーム協議会
広報誌「大空と希望」
発行責任者 加藤和也
No.2 2009年9月30日発行
〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目1広井ビル2F
TEL (011)204-7311 FAX (011)204-7312
URL <http://www.hokkaido-gh.org>

協議会設立 11年目

特定非営利活動法人北海道認知症高齢者グループホーム協議会は設立11年になりました。発足当初は法人格もなく、「認知症の人が少人数の家庭的な環境で、共同生活介護を送る」ということが、どのような影響を及ぼし、どのように効果があるものなのか、ようやくエビデンスが見えてきたところ、北海道の中に30箇所に満たない事業所によって始まりました。

して生まれたグループホームケアは、いよいよ第二段階のステージに入っていくように感じます。認知症についての医療的な進化と共に、疾患によってケアのあり方が違ってきていることが明確になってきました。いよいよ専門的な認知症のケアが求められています。

公益社団法人化により、会員全体が一丸となり認知症の方や、ご家族、地域の方々などに、研修、広報活動を通じて、認知症の理解を深め、認知症の方がその地域で安心して暮らせる地域社会の構築に寄与していきたいと思っております。

今後ますます皆様との連携を強くし、会員・ご本人・ご家族・さらに広く一般の方々まで、認知症という病気を正しく理解し安心して暮らせる社会を目指して生きたいと考えます。

認知症の方がその地域で 安心して暮らせる 地域社会の構築に寄与

今後とも多くのご意見・ご要望を承り、共に歩んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

全国グループホーム団体連合会 設立総会 開催

全国のGHが
団結できる
ネットワーク

去る平成21年7月31日、東京で全国グループホーム団体連合会の設立総会が行われました。北海道認知症グループホーム協議会は昨年より、連合会の設立と参加に向けて議論を重ね、総会で皆様のご承認をいただき、連合会の設立総会を開催することが出来ました。設立総会では、会則に対する議論を活発に行い、これからの活動内容を前向きに議論する事が出来ました。

全国グループホーム団体連合会 目的

(目的)

- 第1条 私たちは、下記に掲げる目的達成のために、全国のグループホームが大同団結できるよう、ネットワークをつくり、育てます。
- 1 私たちは、国民が認知症になっても、人として尊重され、安心して豊かに暮らし続けられるように、制度や仕組みが適切かつ有効に整えられていくことを目指します。
 - 1 私たちは、全国のグループホームが健全で安定した運営を続けられるように、また従事者がより豊かで安定した生活を営めるように、制度や仕組みが適切かつ有効に整えられていくことを目指します。

左記の目的を掲げ、これからのグループホームはもろろんのこと、あらゆる介護保険制度の仕組み等に提言していく活動をすすめていくことを確認しました。

設立時の参加団体数は、正会員16団体・事業所数約2100でスタートし、我が北

海道グループホーム協議会も総会決議通り410の事業者数で参加することとなりました。同時に、全国GH連(略称)の代表世話人を東京都選出の和田行男氏と決定し、北海道より副代表世話人として、当協議会副会長 加藤和也、世話人として、当協議会副会長 宮崎直人が選出されました。今後の活動としては、全国参加団体のご意見をいただき、その事を取りまとめ早い時期に世話人会(地区代表世話人8地区の代表世話人)を開催し、会の活動内容の充実としっかりとした方向性を定めて行くことが確認されました。今後の活動内容も含め、会員各位におかれましては、全国GH連の全会則

を提示すると同時に、活動内容等を報告してまいります。

直近の活動としましては、去る9月11日に世話人会の開催と同時に、午前中に厚生労働省老健局介護保険計画課長 大島一博氏を訪問し、全国GH連設立のご挨拶に伺いました。1時間以上及び意見交換をすることが出来、これからの全国GH連に対する具体的なご助言と具体的な活動内容

容のご示唆をいただきました。また、新しく着任された厚生労働省 老健局 高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室長 千葉登志雄氏へもご挨拶することが出来、実りある訪問となりました事を報告させていただきます。

今後は、国(厚生労働省)よりご示唆いただきました具体的な調査項目を整理した上で、会員各位の皆様にご協力をいただきたくお願い申し上げます。

アルツハイマー型だけじゃない 三大認知症のひとつ レビー小体型認知症とは？

認知症は原因になる病気によって約70種類に分けられます。その中の、アルツハイマー型、レビー小体型、脳血管性の3つは患者数も多く、三大認知症とよばれています。

この病気の完全な治療方はまだ見つかっていません。その上、幻視や妄想など精神疾患が強いいため、介護が難しいといわれています。しかし、本人と家族が互いに生活しやすい環境をつくることは可能です。例えば、幻視症状があらわれた時には、「そんなものいけませんよ!」と否定するよりも、本人の言葉を受け入れて安心させること。また、

レビー小体型認知症症状としては、もの忘れの他、手足や筋肉がこわばるなどのパーキンソン症状、日や時間帯によって頭がはつきりしている状態が入れ替わりが起るなど。さらに、布団の上に蛇が何匹も這い回っている、子供が大勢家の中に入って来るなどの色彩を伴った生々しい幻視症状もみられます。

レビー小体型認知症は、専門に扱う病院がまだ少ないため、アルツハイマー型と誤診されたり、パーキンソン病と診断されてしまう場合も少なくありません。そこへ病院選びが大切になると同時に、支える家族が正しい知識を持つことや、同じ病気をかかえる仲間や専門家心サポートを得ることが必要になります。

SOSネットワークの側面的支援とシンポジウムの開催

当協議会の中にSOSネットワーク推進委員会が設置された経緯は、平成20年8月の旭川での行方不明事例により、グループホームを取り巻く環境やケアのあり方も含め地域のSOSネットワークの実態が浮き彫りとなったことでありました。協議会から、SOSネットワーク構築に向けての支援活動をしていくことが必要ではないか、また地域のまちづくりを視野にいった、地域活動やその提案をしていけないか、それが出来るような支援を協議会側から行ってゆけないか。全道各地域には行方不明による事故が年々増加傾向にあり、それらを未然に防ぐことが重要であることから、現在あるSOSネットワークの側面的支援をしていくこと、お年寄りが安心

して暮らせる街づくり、関係者等に関心をもってもらうことを全道にあるプロジェクト、協議会を活かし働きかけをしていきたい。その為に、この委員会では何が出来るのか考えてきました。例えば、「行方不明者を出さないため、行方不明者が出た時のため」の指針づくりとその共有、アンケートの実施、模擬徘徊訓練の実施、SOSネットワークシンポジウムの実施、弁護士等によるアドバイス、各地域でのSOSネットワークの構築の支援や検索活動のチラシ配布、関連情報のホームページ公開、又認知症の正しい理解について各地で発信していったらと思っております。既存にあるSOSネットワークをこのような活動を通して側面から応援してゆきたいと考えております。これらが同時に地域に住まわれるお歳よりを

10月4日 シンポジウム開催 (釧路市)

広く皆様にSOSネットワークについてお年寄りにやさしい街づくりについて皆様と共に考えてゆきたいとシンポジウムを企画し、10月4日釧路市で開催いたします。グループホーム従事者はもちろん認知症と向き合う様々な方たちと共に、学び・考え・交流する場になりSOSネットワークが広く理解されてゆくことを願っています。多くの皆様の参加をお待ちしております。

レビー小体型認知症 チェックリスト

5個以上該当する場合は、レビー小体型認知症の可能性あり

- もの忘れがある
- 実際にはないものが見える
- 妄想がみられる
- 転びやすくなった
- 睡眠時に異常な行動をとる
- うつ的である
- 動作が極端にのろくなった
- 立ち上がる時にふらつく
- 日(または時間)によって、頭がはっきりしている時とそうでない時の差が激しい